

おいでん・さんそんSHOW

6月号
2017.6.30発行

特集 | ガキ大将養成講座

裏山の秘密基地で、生きる力を育む



東海豪雨による被害の原因、経済としての森、社会生活のなかでの森を図解で説明し、実際に木の皮を剥き木の肌に触れ、倒す「森の話」講座

「ワルガキや、クソガキではない、義理と人情のあるいたずらっこのガキ大将でした」と自らを語る旭地区在住の安藤征夫さん(64)。子育て中の親子向けに「ガキ大将養成講座」を主催しています。

今年で2シーズン目を迎えるこの講座、募集開始当日の午前9時半の時点で38家族151名の申込みがあったほどの人気ぶりです。この講座の主な開催地は「さくら村」。安藤さんが、自身の裏山を切り開き、ツリーハウス、遊具を皆で手作りしている2000平米の秘密基地です。

さくら村を作ったきっかけを教えてください。

私が代表をしている「あさひ薪づくり研究会」では、間伐材を薪にして販売する仕組みづくりをしてきました。

その事業の一環で、裏山を整備し、ツリーハウス作りやツリークライミングができる場を作りました。子どもの頃に森に親しむことで関心を持ってもらい、大人になった時に山の管理の重要さを理解することにつながるのを目指しています。

ガキ大将養成講座をやるって思ったのはなぜ？

2014年、子どもが子ども



子ども達に囲まれ、笑顔を見せる安藤さん

を川に突き落として死なせてしまったというニュースにショックを受けました。子ども自身だけでなく、親や環境にも原因があるんじゃないか。私が子どもの頃は、テーマパークやゲーム機は無かったので自然の中で、自分で遊びを考えて友達を巻き込んで遊ぶしかなかったし、近所の大人が分け隔てなく子どもを見ていました。その環境が、私をガキ大将にしました。さくら村や、山などで自然を体感するガキ大将養成講座を通じ、まっとうな子ども、まっとうな親を作りたいと始めました。巡り巡って、それが「自分ごと」につながるからです。

どうして自分ごとなのですか。

まっとうな子どもが育てば、

2017 第3回 つながる力

年末に発表される流行語大賞に、早くも「付度(そんたく)」がノミネートされているとか。「推し量る」という繊細な日本人の感性を表す美しい言葉が汚され

たよつで残念だ。

おいでん・さんそんセンターの周辺では、「つながる力」という言葉に沸いている。5月1日に足助地区新盛町にオープンし

センター長のミライのフツに 向かって！



センター長 鈴木辰吉

た精神障がい者のデイサービス型地域活動支援センター「畦道」は、二人の若者が「つながる力」で実現したものだ。センターは「つなぎ役の黒子に徹した。」

「誰もが住み慣れた地域で輝けるように」という二人の熱い志と多様なものを受け入れる新盛町の懐の深さ、農を通じたケアのあり方に共感した大家さん、あさひ新研福祉タクシー事業者、無門福祉会、居場所づくり

事業の制度改正に踏み切った障がい福祉課などがつなごうとした結果である。「つながる力」は、どんなに大きい資本力よりも、頭脳の力よりも、また、政治の力よりも大きいことが確信できたプロジェクトのひとつだ。こうした「つながる」プロジェクトが、水面下でいくつも動き始めている。

これからの車は「走る」「曲がる」「止まる」に加え、「つながる」「コネクテッド」機能が欠かせない

いそうである。すべてのモノがインターネットにつながる「IoT」がこれからのモノづくりを牽引するのだろう。

「つながる力」が今年の流行語大賞にならなくても良いが、競い合い、出し抜くことが勝者だった社会から、「つながる」こと、支え合うことで、持続的で幸福なミライをつくる社会にしたいと思う。センターは、そのための黒子でありたいと思う。

イベント情報

ミライの職業訓練校第3期受講生募集

『ミライの職業訓練校』は、豊田市の山里をフィールドに、今の働き方の中で感じる“モヤモヤ”を深め、自分がやりたいことを見つけ、仲間とともに切磋琢磨しながら、カラダとココロが喜ぶ「あなたの天職」を探すための学校です。「決められた働き方に自分を合わせる」のが当たり前。そんな現代の生き方を問う「やりたいことだけやって暮らす」「やるべきことだけやって暮らす」「働くことが愛することになる暮らし」。山里では根源的な人間本来の生き方暮らし方の学びがあります。

●受講料:30,000円※途中で辞退される方は、返金可。宿泊・交通・食事は別途実費 ●フィールド:豊田市旭地区近隣※会場は後日連絡 ●募集対象: ■今の働き方又は将来の働き方にモヤモヤを感じている方 ■田舎に興味がある、移住を検討している方 ■天職を探している方15名程度(書類審査で選考) ●日程と概要(全6回):【第1回7月15日(土)】開校式、自分史をとらえて、自分自身との対話の仕方を学びます。【第2回8月5日(土)、6日(日)】山里に移住した先輩たちの暮らしを学び、お互いの考えをシェアして、それぞれのあり方を考えます。【第3回9月10日(土)】モヤモヤをシェアして深め、具体的に行動するはじめの一步を模索します。【第4回10月28日(土)、29日(日)】先進事例の視察【第5回12月2日(土)】実践にむけて仮説の転がりを共有しながら、モヤモヤ力を醸成【第6回1月14日(土)】学びを共有する発表会 ●申込:氏名、住所、電話番号、メールアドレス、志望動機(400字程度)をご記入の上、<http://sb-ken.com/miraino/asaaaa/>から送信。電話FAXでも申し込み可。 ●連絡先:ミライの職業訓練校事務局(おいでん・さんそんセンター内)〒444-2424愛知県豊田市足助町宮ノ後26-2 TEL:0565-62-0610 FAX:0565-62-0614

その他の情報は、センターHPをチェック！



農家のレシピ



夏野菜と若鶏のラタトゥイユ



小原地区に名古屋近郊から家族で移住して農家4年目。普段は藤岡地区の畑で夫婦2人プラス除草隊のヤギ5頭、休みは3歳から小4の子供4人も一緒に、家族総出で農業を営んでいます。

材料
ナス、ズッキーニ、オクラ(パプリカなど家にある野菜)、調理済みトマトソース、オリーブオイル、にんにく、ハーブ(オレガノなど)またはハーブソルト、鶏もも肉、コンソメ、塩、こしょう

作り方
1. 野菜を2センチ角又は輪切りにカットする。
2. オリーブオイルで刻みニンニクを炒め塩、コショウ、ハーブをふった鶏肉を炒める。ナス、ズッキーニ、オクラを加え、その都度塩一つまみと共に炒める。
3. 鍋に移しトマトソース缶、コンソメ又はブイヨンを加える。煮立ったら弱火にし、ふたをして30分ほどコトコト煮る(時々底から混ぜる)。
4. 味をみて、塩が足りなければ入れて調える。

REPORT

『もっと子どもを好きになる』 子育て耕縁会連続講座 1 回目



子育て中の母親同士のつながる場に

6/14(水)、おいでん・さんそんセンター一次世代育成部会が、「第2回子育て耕縁会『もっと子どもを好きになる』」を足助交流館で主催しました。この講座は3回連続として企画されており、今回は第1回目の開催で16名のお母さん・お父さんと沢山の子どもたちが集まりました。

子育て中の母親の孤独が問題になって久しいです。頼ったり、日中話す相手がいな

い。自分だけでがんばる日々がいつまで続くか分からない不安。今回の講座では、子育てに一番大切な「つながること」を意識しました。自己紹介では、一言目は「緊張しています」と言いながら、しっかりと自分の日ごろの思いを伝えてくださる参加者たち。イライラとした自分の感情をコントロールできずに苦しんだり、子どもの兄弟姉妹関係に困惑したり、それぞれが抱える思いを他の人たち

も同じように感じ、苦しんでいることをシェアする時間となりました。

講師の鈴木かよさんは闇雲に子育てするのではなく、子どもと大人とが対等であると理解しておくことの大切さや、楽しい時間を親子で持つことの重要さなどを伝えられました。講座後にも、講師に話を聞く参加者の姿がたくさん見られました。講座はあと2回続きます。その中でつながりがより深まっていくことを期待しています。(小黑敦子)



後方に子どもたちのスペースを設けて行いました

REPORT

『車座ふるさとトーク』開催



センタースタッフ坂部が登壇

財務省主催、地域の声を安倍内閣に届ける「車座ふるさとトーク」が産業文化センターで開催され、当センタースタッフの坂部友隆(地域おこし協力隊)もふるさとづくりの現場の生の声を届けました。聞き手は、財務副大臣大塚拓氏。坂部の意見要旨は、「お金で測る価値とは違った、地域や自然とのつながりから安心が実感できる社会を求める人々が増えていく。センターは、中間支援機関として、そうしたつながりをコーディネートしており草の根の地方創生が見えてきた。NPOやセンターのような中間支援に取組む団体やその人材育成に国として目を向けて欲しい」というもの。他の参加者からも、企業の農業参入の障壁、

食料自給率の向上、女性の社会参加と子育て支援策など鋭い視点での意見が相次ぎました。(鈴木辰吉)

発言する坂部



REPORT

豊森なりわい塾 第七期スタート



人材育成プロジェクトに24名が参加

5/20(土)、豊田森林組合の会議室で第七期「豊森なりわい塾」の入塾式が行われました。豊森なりわい塾は、NPO法人地域の未来・志援センター(名古屋市)、豊田市、トヨタ自動車(株)の3組織が協働して2009年にスタートした「人づくり」、「地域づくり」、「仕組みづくり」について学ぶ人材育成のプロジェクトです。活動のフィールドは市内の旭、下山、稲武地区から4地域が設定され、塾生たちは、1年間を通したプログラムで地域を歩き、森林や食といったテーマごとに、地域や



7期塾生のみなさん

地域と関わりのある人々と触れ合いながら、自らの生き方や価値観をみつめ直していきます。

今期の塾生は20代～60代の24名。豊田市内のほか、東栄町、蒲郡市、名古屋市、春日井市からも参加がありました。

豊森実行委員会委員長の澁澤寿一さんは、「どう生きていこうとするのか正解はない。嫌でも本音で話し合う仲間ができる」と入塾生たちに語りかけていました。これまでの卒業生の中には、塾で経験したことをきっかけに、暮らしや働き方を変えた人も多くあらわれています。気持ちのいい風の中、午後から早速行われた初回講座「地元学」でのまち歩きは、近いようでも自分の生活とは違う暮らしのリズムが感じられました。(田中敦子)



まち歩きと、発表の様子

参加者の声



原さんご一家 (名古屋市在住)

Q:参加の理由は?

旭地区に引っ越した友人のSNSで、講座の開催を知りました。子どもたちが、都会では経験できないことができるんじゃないかと参加を決めました

Q:子ども達に変化はありますか?

以前は、困った時、できないとすぐに諦めていたのが、講座に通ううちに、少し考えてみたり、親以外に相談したり、自ら考える力がついてきたと感じます。

Q:親としてご自身が変わったと思うことは?

知らず知らずのうちに子どもに口出しすることが多くなったのが、見守る余裕ができるようになりました。

子どもたちの声

小さい子と遊んだり、色々やれるし作れるから楽しい!(亜麗ちゃん小1)

作れること、たくさん遊べるのが楽しい!(昇亜くん小3)



(上左)登山の回、笑顔を見せる安藤さんと子どもたち(上右)ツリーハウスの様子(下左)インパクトドライバーも恐がらずに使う(下右)ツリーハウスの上棟式の様子

まっとうな社会ができることにつながる。そうすれば、私がよりよい社会で生きることにつながります。幼い頃に森林の公益的価値を学べば、将来的に都市に住んだとしても、山村地域の存続の必要性をわかってくれることになり、自分ごとに関わってきます。

今までの講座内容について教えてください。

森の役割を学んでからの皮むき間伐体験、新割りをして自分の小遣いを稼いだり、山登り、田植え体験、ツリーハウス作り、他にも会員の意見を取り入れながらやってきました。遊びではなく、学習の場としてやっています。小学生でもインパクトドライバーになりた〜と言っ

子どもたちに、どんな変化がありますか?

あ〜2年のうちに、バイクと井戸と第2基地を作る予定です。それが完成したら私の想いを引き継いでくれる方に、さくら村の権利を譲ろうかと思っています。新しい風を入れなきゃ。いつまでも同じ人が継続しているのは退化と同じ。会社員として働き、前述のあ

ささ新研の代表、集落の定住委

「大変だと感じることはありませんか?」との問いに「好きでやっていますから。講座をやるようになって自分が一番得ています。子どもたちを見ていると元気になるし、笑わなかった子の笑顔を見て嬉しくなる自分を『成長したな』と感じます」と安藤さんは笑顔を見せました。(木浦幸加)



戦する力を持つていることに気が付いたり、働くことの楽しみがわかったり、成長しています。その変化に、親の子どもたちを見る目も変わってきています。思ったとおりの展開に「作戦通りだ」と感じていますよ。今後どうしていきたいとお考えですか?

あ〜2年のうちに、バイクと井戸と第2基地を作る予定です。それが完成したら私の想いを引き継いでくれる方に、さくら村の権利を譲ろうかと思っています。新しい風を入れなきゃ。いつまでも同じ人が継続しているのは退化と同じ。会社員として働き、前述のあ

わかる業務も1年を通じてあります。「大変だと感じることはありませんか?」との問いに「好きでやっていますから。講座をやるようになって自分が一番得ています。子どもたちを見ていると元気になるし、笑わなかった子の笑顔を見て嬉しくなる自分を『成長したな』と感じます」と安藤さんは笑顔を見せました。(木浦幸加)